

東洋文庫所蔵 カロン
『日本大王国志』 諸本から見る
17世紀ヨーロッパにおける
日本情報の伝播状況（下）

羽 田 孝 之

以下、(上) (第54号掲載) に収録。

- 1) はじめに
- 2) オランダ語原著諸本
- 3) 『日本大王国志』を転載して伝えた作品 (1) : ヴァレニウス『日本伝聞記』
- 4) 『日本大王国志』を転載して伝えた作品 (2) : マンデルスロ『東インド航海記』

5. 英語訳版

⑧英語訳初版 (図1)

Caron, François.

A true description of the mighty Kingdoms of Japan and Siam. Written originally in Dutch by Francis Caron and Joost Schorten: And now rendered into English by Capt. Roger Manley.

London: Samuel Broun and John del'Ecluse, 1663.

15 cm (8vo, Title., 3 leaves, pp.1, 2, folded map, pp.3-50, folded plate, pp.51-66, folded plate, pp.67-88, folded plate, pp.89-152.

[請求記号 : 貴重書 O-17-A-3] [Boxer: English ed. 1]

⑨英語訳第2版 (図2)

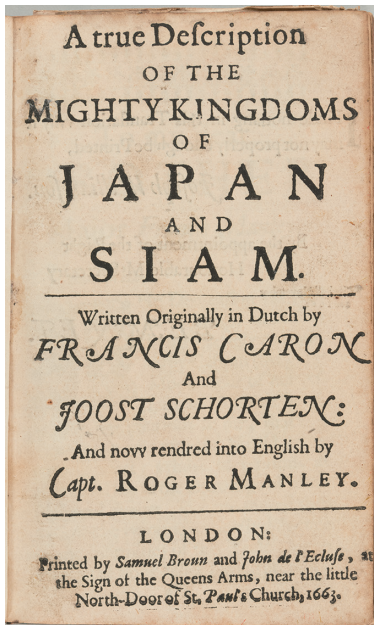


図1 ⑧英語訳初版

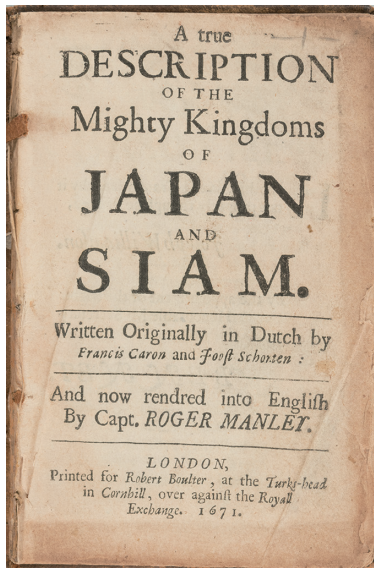


図2 ⑨英語訳第2版

Caron, François.

A true description of the mighty Kingdoms of Japan and Siam. Written in Dutch by Francis Caron & Joost Schorten: and now rendered into English by Capt. Roger Manley.

London: Robert Boulter. 1671.

18 cm (Title., 3 leaves, pp. [1], 2-112(i.e.152).

[請求記号：特別貴重書P-38] [Boxer: English ed. 2]

カロン『日本大王国志』の独立した翻訳版として最初に刊行されたのが、英語訳版である。前稿で述べた通り、マンデルスロー『東インド航海記』英語訳版（1661年）にカロン『日本大王国志』の大部分が転載されたことが、英語圏における同書の最初の紹介であった。1663年に刊行された英語訳初版は、これに続く本格的な全訳版で、他言語への全訳版

としては最初に刊行された作品である。訳者マンレー (Roger Manley, 1626? - 1688)⁽¹⁾は、イングランド内乱期に活躍した軍人、著作家で1646年から14年に及ぶオランダ滞在 (亡命) 経験があったとされており、その際にカロン『日本大王国志』に触れる機会があったものと思われる。この英語訳版は前稿で論じたオランダ語カロン校閲版を底本としており、同版に収録されている折り込み日本図と3枚の図版が全てオランダ語表記のまま収録されている。カロン校閲版を底本としてカロン自身のテキスト (『日本大王国志』) の全訳に加えて、附論として収録されている「東インド会社の上席商務員クラメルによる京都における後水尾天皇の行幸記」⁽²⁾、「オランダ東インド会社インド総督が本社理事会に送付した日本貿易報告抄録」⁽³⁾、「カンペンによるオランダ東インド会社が対中貿易を獲得した際の対日貿易における利点略説」⁽⁴⁾、「スハウテンによるシャム王国論」⁽⁵⁾もこの英訳版には収録されているが、カロン校閲版に収録されていたガイスペルスゾーン (Reyer Gysbertszohn) による日本におけるキリシタン迫害記は除外されている。マンレーによる英訳は、一部瑕疵が認められるものの概ね適切な訳文であるとボクサーによって評価されていて⁽⁶⁾、事実マンレーは本書刊行後にもイングランド内戦に関する著作⁽⁷⁾などを手掛けていることから、著述家としても一定の評価を得られる力量を備えていた訳者であると言えるだろう。

東洋文庫所蔵本は刊行当時のものと思われる全革装丁で、見返し部分に「HENRY WHITE. Close. LICHFIELD. October Jo. 1820」とのインクでの書き込みが見られる。ヘンリー・ホワイト (Henry White, 1761-1836) の詳しい経歴は不明だが、愛書家として数多くの蔵書を有していたようで、彼の署名が見られる書物は英米圏を中心に数例確認されている⁽⁸⁾。製本時のトリミングにより上下の余白部分がかなり狭められているものの、先述の日本図 (図3)、3枚の図版 (図4、5、6) を完備しており、完本と言える状態である⁽⁹⁾。カロン校閲版の原版をそのまま流用して印刷されたと思われるこれらの図版は、ボクサーの言うように原版摩耗のため、かなり描線が薄くなっている⁽¹⁰⁾。

カロン校閲版の4刷が刊行されたのが1662年、その翌1663年に英語訳初版が刊行されていることに鑑みると、訳者マンレーはオランダ語校閲



图3 ⑧英語訳初版収録日本図



图4 ⑧英語訳初版収録切腹図



図5 ⑧英語訳初版収録処刑図



図6 ⑧英語訳初版収録將軍謁見図

版を手がけた Tongerloo 社、あるいはカロン自身と直接の面識があったのではないと思われるが、そうした刊行経緯については訳者序文では語られておらず、また後年の研究でも明らかにされていない。英語訳版は全文翻訳版としては、他言語版よりもいち早く刊行され、またカロン校閲版と同じ図版類を備えているという点でカロン自身の関与も推定される非常に重要な版である。しかしながら、書物としては長辺15センチの文庫本ほどのサイズでしかなく、また用いられている活字もそれほど上質なものとは思われず、全体として非常に質素な印刷と造本である。こうした書物の体裁から見ると、同書の発行部数、影響力といったものはそれほど大きくなかったものと推察される。

とはいえこの英語訳版は1671年にも再度刊行されていることから、当時の読者から一定の反響があったことは確かである。この1671年版は、1663年版と非常によく似ているが出版社が変更されていて、細部を見ると異なる活字が用いられており、全く新たに版組がなされていることがわかる⁽¹¹⁾(図7、8)。1671年版は1663年版にあった地図や図版の収録位置を示す指示ページがなくなっており、これらの地図や図版も収録されていない。ボクサーによると1671年版には新たに作成された日本図

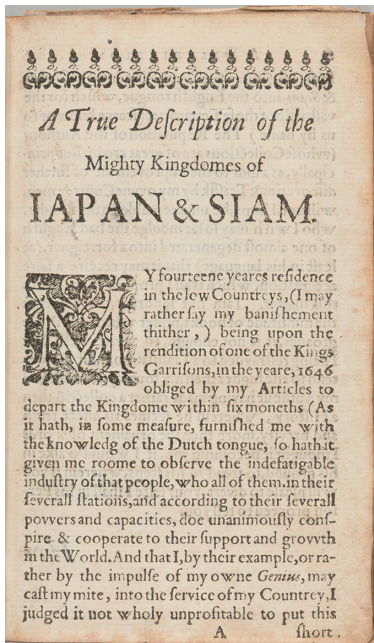


図7 ⑧英語訳初版本本文冒頭

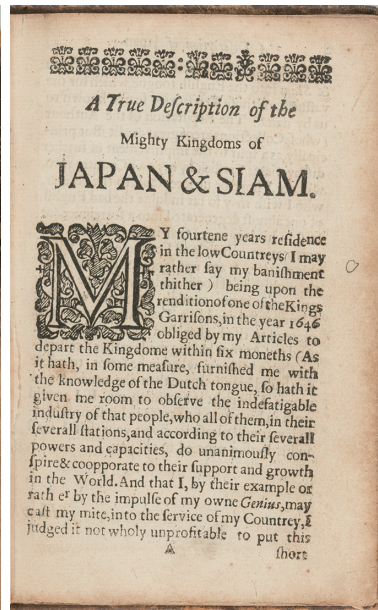


図8 ⑨英語訳第2版本本文冒頭

(文字情報が英訳されている)⁽¹²⁾が収録されている⁽¹³⁾とのことであるが、東洋文庫所蔵本にはこの日本図は収録されていない。ボクサーは、地図以外の図版が収録されている1671年版をこれまで目にしたことがないとしている⁽¹⁴⁾が、筆者の知る限り少なくとも1点そのような1671年版が現存している⁽¹⁵⁾ことから、同じ1671年版でも地図や図版の収録状況は諸本によって異なるのではないと思われる。もちろん後年の所蔵者によってこれらの図版や地図が切り取られてしまうことも大いにあり得るだろうが、これらが欠けているからといって直ちに欠落本とは言えないであろう。なお、この1671年版は1663年版とほぼ同じテキストであるが、何故かカロンによるテキスト最後の一文だけが欠落している⁽¹⁶⁾。

これら2種類の英語訳版は、一早い全文翻訳版として大きな意義を有しているが、上述の通り質素な造りの小型本で、現存数⁽¹⁷⁾から推察しても、この作品自体が広範囲の読者を得ることは望めなかったのではない

かと思われる。しかしながら、後年このマンレー英語訳版に基づいた改編テキストが様々な書物に転載されており⁽¹⁸⁾、結果的に19世紀に至るまでカロン『日本大王国志』の内容を英語圏の読者に広く長く伝えることに大きく貢献することになった。

6. ドイツ語訳版

⑩ドイツ語訳初版 (図9)

Caron, Francois...et al.

Wahrhaftige Beschreibungen zweyer mächtigen Königreiche Jappan und Siam ...

Nürnberg: Michael und Joh. Frederick Endters, 1663.

16 cm (8vo, Title., Front., 10 leaves, 1 folded map, pp.1-78, folded plate, pp.79-104, plate, pp.105-132, folded plate, pp.133-154, plate, pp.155-176, plate, pp.177-268, folded plate, pp.269-520, 11 leaves(Register), 1 leaf(blank) bound with another work)

[請求記号：貴重書 O-17-A-30]

[Boxer: German ed. 1]

英語訳版に続いて刊行されたのが1663年に刊行されたドイツ語訳版である。前稿で述べた通り、ドイツ語圏ではマンデルスロー『東インド航海記』に『大日本王国志』の一部が転載されたことで、早くからその内容が伝えられていた⁽¹⁹⁾が、全訳版が刊行されたのもカロン校閲版刊行の2年後と英語訳版に次いで極めて早い。このドイツ

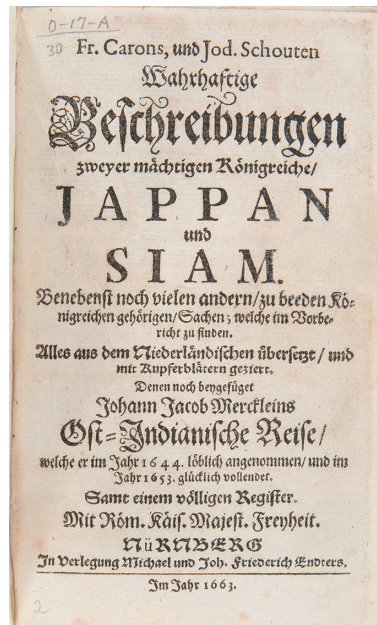


図9 ⑩ドイツ語訳初版

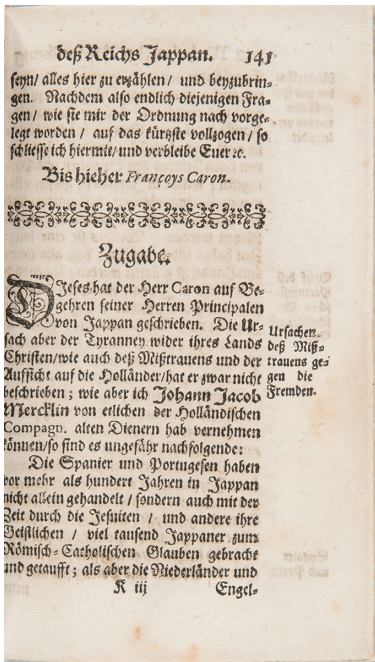


図10 ⑩ドイツ語訳初版メルクライン注 釈冒頭

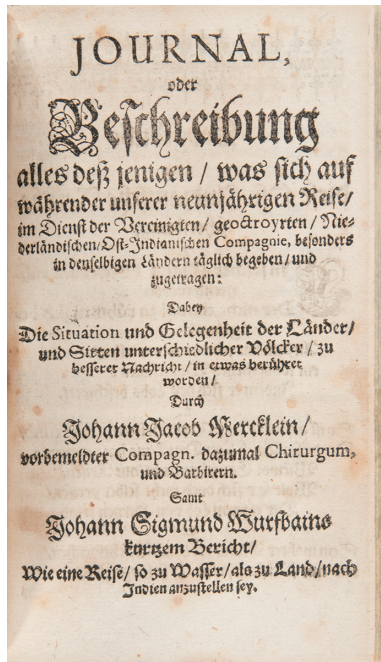


図11 ⑩ドイツ語訳初版メルクライン 「東洋遍歴記」

語訳初版は、ニュルンベルクで活躍していた学者アーノルド (Christoph Arnold, 1627 - 1687)⁽²⁰⁾ によって編纂がなされており、日本をはじめとした東インド各地の滞在経験を持つ元オランダ東インド会社社員であるメルクライン (Johann Jacob Merklein, 1620 - 1700)⁽²¹⁾ がドイツ語訳を手がけている。このドイツ語訳初版には、『日本大王国志』に対するメルクライン独自の注釈記事 (図10)、さらにメルクライン自身の「東洋遍歴記」⁽²²⁾ (図11) など、『日本大王国志』以外の記事が多数収録されていることが大きな特徴である。『日本大王国志』の翻訳と注釈記事を手がけたメルクラインは、長年オランダ東インド会社の医師として勤務し、カロン本人とも親しく、彼自身も日本への渡航と滞在経験があったことから、『日本大王国志』のドイツ語訳者としては最適の人物であったと言える。また、このドイツ語訳初版では、底本としたカロン校閲版では削除されていた



図12 ⑩ドイツ語訳初版収録切腹図



図13 ⑩ドイツ語訳初版収録將軍謁見図

ハーゲナールによる注釈があえて訳出されており、アーノルドやメルクラインがこの記事の重要性を認識していたことがうかがえる。

このドイツ語訳初版には、カロン校閲版に収録されていた3枚の図版のうち、「切腹図」(図12)と「将軍謁見図」(図13)が収録されているが、英語訳初版とは異なりドイツ語訳版のために新たに版を起こして製作されたものである。また、キリシタン迫害の様子を描いた図版は、カロン校閲版では3図が1枚にまとめられていたものをそれぞれ独立させて3枚の図版(図14)としている。カロン校閲版に収録されていた日本地図(図15)については、基本的な図形は踏襲しつつも地名の追加等を施して地図情報の質を高めた改訂版日本図を新たに作成して収録している⁽²³⁾。カロン校閲版にはみられないドイツ語訳初版独自の図としては、非常にユニークな口絵(図16)があり、これは明らかに前稿で紹介したヴァレニウス『日本伝聞記』の口絵をほとんどそのまま転用したもので、編者アーノルドが作品の内容に鑑みて採用したものと思われる。

このドイツ語訳初版には、カロン『日本大王国志』以外の関連する独自記事が新たにいくつか付け加えられている。その一つである「1662年7月5日に中国の人々の支配下に帰した美しきフォルマサ、台湾島での出来事の速報」⁽²⁴⁾と題した記事(263ページ～)(図17)は、特に注目すべき記事である。これは、オランダが支配していた台湾の拠点であるゼーランディア城が、国姓爺(Coxcenia)こと、鄭成功によって1662年に陥落させられた事件を伝えた記事で、本書が刊行されたのはゼーランディア城陥落の翌年1663年のことであるから、極めて早い時期にヨーロッパで同事件を報じた記事である。しかも、この記事にはゼーランディア城が鄭成功によって包囲されて攻め込まれる場面を台湾の小地図とともに描いた折り込み図版(図18)が収録されていて、同時代の視覚資料としても大変興味深い。

さらに、上述のメルクライン「東洋遍歴記」は、1644年から1653年にかけて行った東洋各地への旅行に際して記していた日記を元にした作品で、このドイツ語訳初版において初めて公刊された記事であることから、カロン校閲版には見られない独自記事として大変重要である。中でも日本滞在中にメルクラインが観察した日蘭貿易やオランダ商館の様子を記



図14 ⑩ドイツ語訳初版収録穴吊図

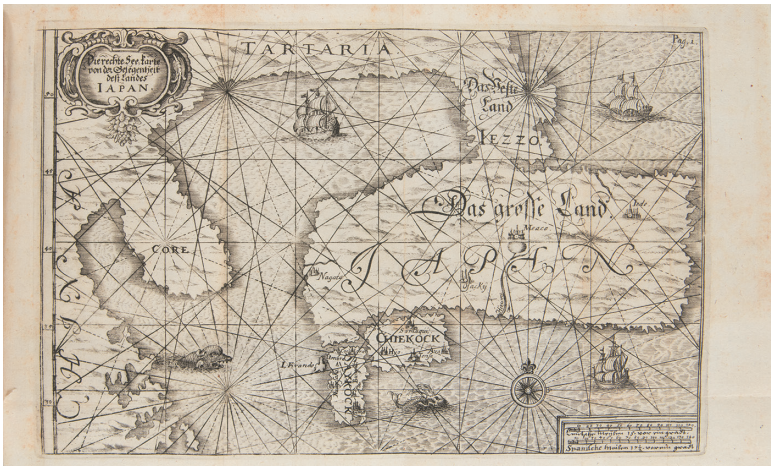


図15 ⑩ドイツ語訳初版収録日本図



図16 ⑩ドイツ語訳初版口絵

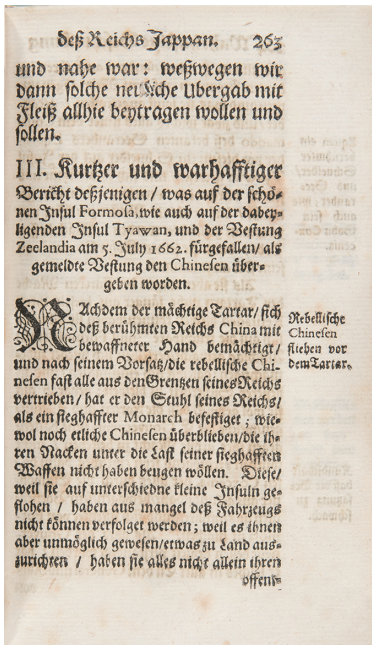


図17 ⑩ドイツ語訳初版「ゼーランドニア陥落記」

した箇所などは、これまであまり知られていない日本関係記事として特に興味深い。この「東洋遍歴記」冒頭には、編者アーノルドによる本書を称える詩⁽²⁵⁾が掲載されていて、その中ではカロンその人についても言及されている。

こうしたドイツ語訳版独自の増補がなされていることに鑑みると、ドイツ語訳版はカロン校閲版以上に日本やその周辺地域の豊富な情報を収録した、独自の意義を有する作品であると言えるだろう。

このドイツ語訳初版はかなりよく読まれた⁽²⁶⁾ようので1672年には、アーノルドによる全編にわたる膨大な注釈や新しい記事、多数の図版が加えられ、その分量が二倍近くになるほどの増補が施された刷新版⁽²⁷⁾が出されている。カロン『日本大王国志』のドイツ語訳版は、18世紀のヨーロッパにおける日本関係書の金字塔となったケンペル (Engelbert Kämpfer,



図18 ⑩ドイツ語訳初版「ゼーランディア陥落記」収録図

1651-1716) が『日本誌』⁽²⁸⁾執筆の際に参照したことで知られており⁽²⁹⁾、後年に与えた影響力が非常に大きかったことがうかがえる。

東洋文庫が所蔵するドイツ語訳初版本は、刊行当時のものと思われるヴェラム装丁本で背表紙にタイトルがインクで記されている⁽³⁰⁾。印刷の状態も鮮明で、地図、図版も完備しており、状態の良い完本と言えるものである。書物の長辺は英語訳本と変わらない16センチ弱と決して大きくない書物であるが、先述の通り独自の注釈が付け加えられている上に、カロン『大日本王国志』以外の多くの作品も収録するため500ページを越える大部の作品となっていて、かなりの厚みがある書物となっている。こうした重厚感のある造本も同書の現存数を保つことに寄与したと思われる。

7. フランス語訳版（サトウ旧蔵本の紹介含む）

①フランス語訳初版（図19）

Caron, François.

Relation de l'empire dv Japon. Comprise dans les réponses que F. C. ... fit au sieur Philippe Lucas... Feueue & augmentée par l'auteur, & purgée des fausses remarques & additions que Henry Hagenauer y auoit inserees; tellement qu'elle est maintenant en toutes parties conforme à son original.

(From M. Thévenot's Relations de divers voyages cvrieux ; tom. 1, ptie. 2.)

Paris: (Sebastien Marbe-Cramoisy⁽³¹⁾), (1673⁽³²⁾).

40 cm (Large 4to, Later blank leaf, later blank leaf (on which larger French manuscript pasted), later blank leaf (on which smaller French manuscript pasted), pp.1-44, 45-46(plate), 47, 48, later blank leaf.)

[請求記号：貴重書O-17-A-25] [Boxer: French ed. 1]

カロン『日本大王国志』のフランス語訳版は、英語訳版やドイツ語訳版のように独立した作品としては刊行されておらず、テヴェノー (Melchisédech Thévenot, c.1620-1692) の『航海記集成』⁽³³⁾第2部に収録された。テヴェノーの『航海記集成』は、それまでヨーロッパ各国で刊行されていた航海記集成を参照しつつ、新たな史料を駆使して編纂された17世紀後半を代表する画期的な航海記集成で、当時多くの読者を獲得したことが知られている。のみならず同書は、コルベール (Jean-Baptiste Colbert, 1619-1683) によって計画され、ルイ14世 (Louis XIV, 1638-1715) が1664年に設立したフランス東インド会社 (Compagnie des Indes Orientales) の活動にも貢献するところがあったとされている⁽³⁴⁾。テヴェノーの『航海記集成』は1663年から1672年にかけて全4部構成で刊行されたが、その第2部にカロン『日本大王国志』は収録されている。テヴェノー『航海記集成』はその書誌情報が極めて錯綜していることで知られ

る作品で、収録されているすべての航海記に個別の独立したページ付がなされていて、同書収録以前に独立した形で刊行された可能性もあるため、収録作品の初出刊行年を特定することが非常に困難である。カロン『日本大王国志』が収録されている第2部全体のタイトルページには1666年と記載されているが、ボクサーはコルディエ『日本書誌』の記載⁽³⁵⁾に依ったとして、1673年を『日本大王国志』フランス語訳初版の刊行年としている⁽³⁶⁾。コルディエが何を根拠に1673年としたのかは不明であるが、テヴェノーによるこのフランス語訳初版序文を読むと、カロンが直近に亡くなったことを示唆する旨が記されていることから、その没年である1673年を刊行年として採用したのかもしれない。

ボクサーもその典拠としているティーレ (Pieter Anton Tiele, 1834-1889) による『オランダによる航海記に関する書誌的覚書』によると⁽³⁷⁾、テヴェノーはカロン自身から校閲版『大日本王国志』1661年版を贈られ、共通の友人であるオランダの外交官であったハイゲンス (Constantijn Huygens, 1598-1687) を通じて、日本の薬学についての追加質問をカロンに送るなど、カロン自身と幾度か交流を持つことができたようである。事実、このフランス語訳初版の序文において、同様のことがテヴェノー自身によって記されており、日本の薬学、医療について、また日本人々の気質について、テヴェノーがカロンから聞き得たことも短文ながら記されている。これらの記述は当然ながらフランス語訳初版独自の内容である。カロンはオランダ東インド会社での豊富な経験をコルベールに買われて、設立されたばかりのフランス東インド会社の長官に就任してお

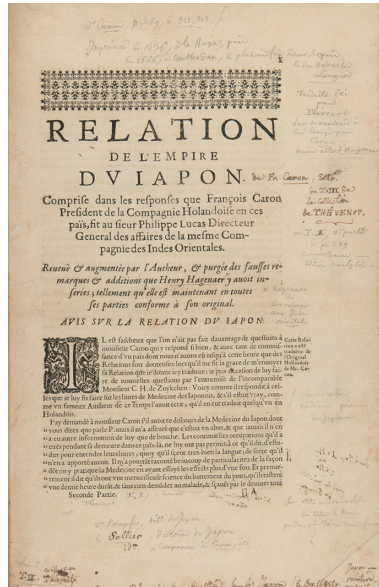


図19①フランス語訳初版冒頭

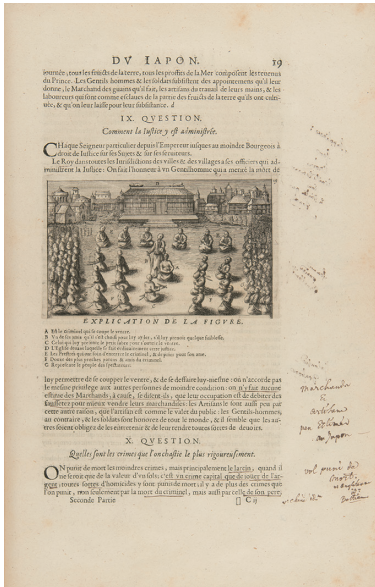


図20 ①フランス語訳初版収録切腹図



図21 ①フランス語訳初版収録將軍謁見図

り(38)、同社の事業とも関係が深いとされるテヴェノー『航海記集成』のために協力することは自然なことであったと思われる。このフランス語訳初版は、当時のフランスにおける東インド政策と深い関わりを持つ版であることや、フランス語を母語とするカロン自身が生前最後に関与した最終決定版とも見做しうるといふ点に鑑みると、非常に重要な版であると言えるだろう。

このフランス語訳初版は、基本的にカロン校閲版を底本としており、3枚の図版もほぼ同じものを踏襲(図20、21、22)しているが、カロン自身が不正確であると見做した日本図は削除されている。ボクサーはティーレを典拠として、フランス語訳初版にはカロン校閲版の日本図に代えて、66カ国の国名と主要都市を明記した地図が新たに収録されたと述べているが(39)、実際にはそのような日本図は収録されておらず、そもそもティーレ『オランダによる航海記に関する書誌的覚書』にそのような記述自体を確認できない。ボクサーが言及している日本図の特徴は、



図22 ①フランス語訳初版収録処刑図

後述するフランス語訳第2版に収録されている日本図の特徴と合致することから、ボクサーが何らかの理由により誤って記載したものと思われる⁽⁴⁰⁾。また、カロンが不要と見做したハーゲナルによる注釈は、タイトルでは削除したと明記されているにもかかわらず収録されており、ティーレもドイツ語訳編者と同じくこの注釈を重要視していたことがうかがえる。

このように翻訳版でありながらカロン自身が関与したという独自の意義を有するフランス語訳初版であるが、東洋文庫所蔵本は、アーネスト・サトウ (Ernest Mason Satow, 1843-1929) 旧蔵本で、しかも全編にわたって夥しい欄外注の書き込みが見られるという極めて特異な1冊である。幕末、明治初期の日本においてイギリス駐日外交官として活躍したことであまりにも有名なサトウが稀代の蔵書家でもあったことはよく知られており⁽⁴¹⁾、東洋文庫所蔵本の見返しには、サトウ旧蔵書に見られる特徴的な蔵書票が貼られている (図23)。また、サトウ旧蔵書の一部に見られる手の込んだ半革装が施されており (図24)、明らかにサトウ旧蔵本



図23 ①フランス語訳初版アーネスト・サトウ蔵書票



図24 ①フランス語訳初版アーネスト・サトウ旧蔵装丁

であることが一見してわかるものである。サトウは1913年1月と6月の2度にわたって所蔵していた日本関係洋書をオークションを通じて売却しており⁽⁴²⁾、この際の売立目録⁽⁴³⁾に東洋文庫所蔵本の特徴と一致するものが掲載されている⁽⁴⁴⁾。1913年のオークション売却後にいかなる経緯を経てこの書物が東洋文庫に入ることになったのかは不明であるが、東洋文庫には同書以外にもこの際に売却されたサトウ旧蔵書が複数収蔵されている⁽⁴⁵⁾。

サトウ旧蔵書である東洋文庫本は、本書関連文献⁽⁴⁶⁾のことなどがインクで記された2葉のメモが冒頭に貼り付けられており、またテキスト全編にわたってインクと鉛筆による筆跡のよく似た2種の書き込みがなされている。書き込みの内容は、本書がテヴェノー『航海記集成』からの抜き刷りであるという書誌情報に関することや、先の手書きメモと同じく関連文献のことなどであるが、最も頻繁に注記や下線がなされている箇所は日本の地名に関する記述である。例えば2ページには「Japon.

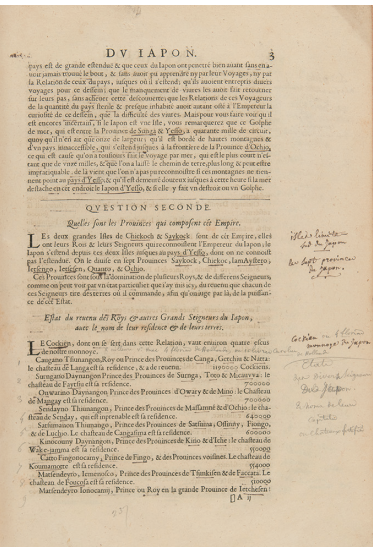
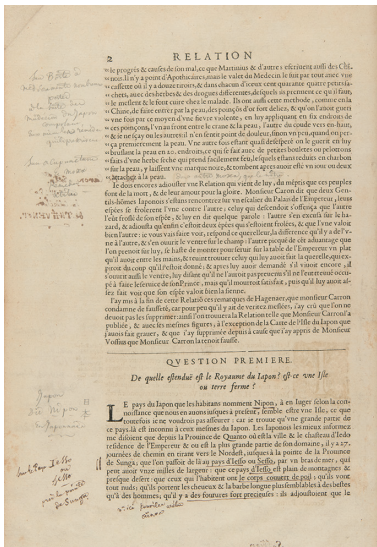


図25 ①フランス語訳初版書き込み (p.2) 図26 ①フランス語訳初版書き込み (p.3)

Nippon, Japonais. 日本」との書き込み (図25)が見られるほか、3ページ以降に掲載されている大名の石高一覧に記載のある地名には全て下線が引かれてある (図26)。また、日本における喫茶文化について言及している11ページには、「茶、Tcha」との書き込みが見られ (図27)、日本語や茶そのものへの強い関心もうかがえる。それ以外にも日本の階層構造や女性の地位、日本の対外通商に関する箇所、江戸城における将軍の謁見の様子、日本の歴史に関する記述などで非常に多くの書き込みや下線が引かれており、筆者の関心のあり方を示していて非常に興味深い。サトウ旧蔵本であることから、この筆者がサトウその人ではないかと推定したいところではあるが、書き込みがフランス語でなされていることや、筆跡の特徴をサトウのそれと綿密に照合する必要があることから、現時点では断定を慎み、さらなる研究を待ちたい。

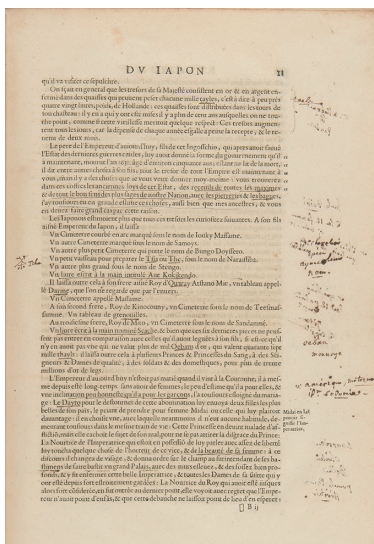


図27 ①フランス語訳初版書き込み (p.11)

⑫フランス語訳第2版 (図28)

Bernard, Jean-Frédéric (ed.).

Recueil de voyages au Nord : contenant divers memoires tres utiles au commerce & à la navigation. T.1-6.

Amsterdam: Chez Jean Frederic Bernard, 1715-1720.

6 v. 17 cm.

[請求記号 : 貴重書 O-1-A-4] [not in Boxer(only citing later ed.)]

⑬フランス語訳第2版海賊版⁽⁴⁷⁾ (図29)

[Bernard, Jean-Frédéric (ed.).]

Recueil de voyages au Nord : Contenant divers memoires trèsutiles au commerce & à la navigation. Enrichi de grand nombre de cartes & figures.

Rouen & Amsterdam, 1716-1719.

4 v. 18 cm.

[請求記号 : 貴重書 O-1-A-5] [not in Boxer(only citing later ed.)]

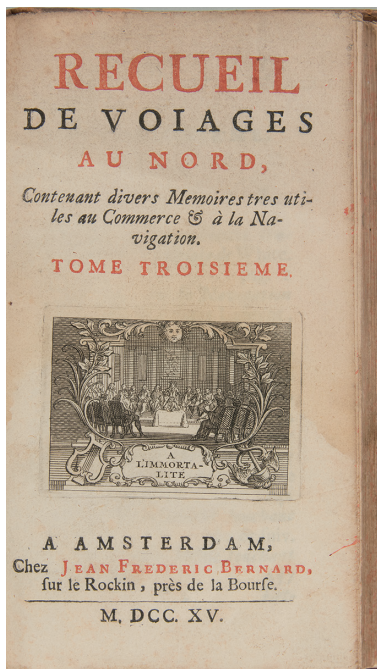


図28 ⑫ベルナル『北方探検記集』第3巻初版（モリソン旧蔵本）

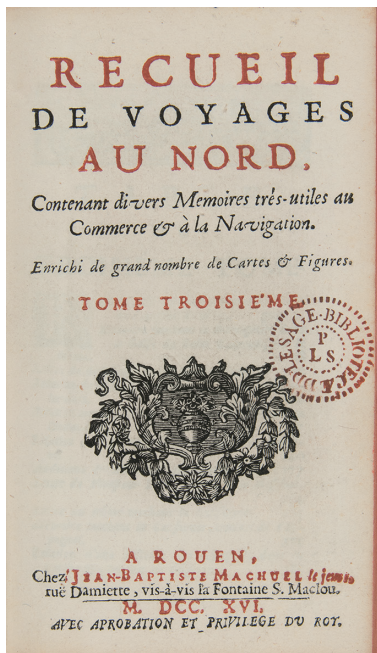


図29 ⑬ベルナル『北方探検記集』第3版海賊版

テヴェノーによるカロン『日本大王国志』フランス語訳初版のテキストは、18世紀に入って『北方探検記集』という全く別の作品の一部として再録され（図30）、これが事実上のフランス語訳第2版として流通した。この『北方探検記集』の企画、編集を務めたのは当時を代表する出版人であったベルナル（Jean Frederic Bernard, 1680 - 1744）⁽⁴⁸⁾である。ベルナルは、古今東西の宗教文化を比較考察し、多くの図版を収録した『偶像崇拜の国々の宗教文化と儀式』⁽⁴⁹⁾の執筆者としても知られるほか、前稿で言及したコメリン（Isaac Commelin, 1598-1676）の『東インド会社の起源と発展』のフランス語訳⁽⁵⁰⁾の出版も手掛けている。

この『北方探検記集』は、当時のヨーロッパにとって未解明であった

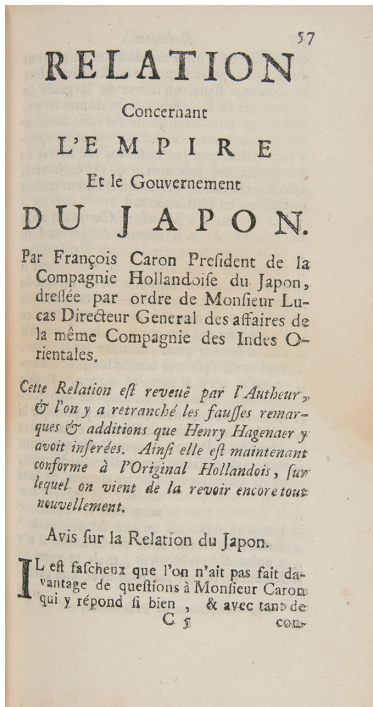


図30 ⑬『北方探検記集』第3巻初版収録「日本大王国志」

北方海域について、最新の知見を集成することを企図して刊行された作品である。ヨーロッパからアジアに向かうために、ユーラシア大陸の北方を東に向かう北東航路、またアメリカ大陸の北方を西に向かう北西航路の開拓は、大航海時代の後発国であるオランダ、イギリス、フランスにとって長年の悲願で18世紀に至るまで様々な試みがなされて続けていたが、全て失敗に終わっていた⁽⁵¹⁾。ベルナルによる『北方探検記集』は、この試みを何とか成功に導くべく同海域に関するあらゆる情報を集成して編纂された作品で、1715年に全3巻本として刊行された。初版刊行直後から好評を博し、最終的に全10巻に至るまでに刊行が続けられ、再版や異刷版のほか、海賊版

までもが出版されるほどの大きな反響を呼んだ。東洋文庫が所蔵しているのは、1715年から1720年にかけてアムステルダム刊行された第1巻から第6巻のセットと、1716年から1719年にかけてルーアンで刊行された第1巻から第4巻の海賊版のセットである。

『北方探検記集』はその構成を何度か変更しているため、カロン『日本大王国志』が収録される巻もその版によって異なる⁽⁵²⁾が、東洋文庫が所蔵する2セットはいずれも第3巻に収録されている。ベルナルは、北東航路の実現に資する情報の一つとして、カロン『日本大王国志』に着目したようで、同じ第3巻にはオランダの航海士フリース (Maarten Gerritszoon. Vries, 1589-1647) が1643年に行った日本北方海域の航海記録⁽⁵³⁾や、イエズス会士マルティニ (Martino Martini, 1614-1661) によ



図31 ⑬『北方探検記集』第3巻海賊版収録日本図

る韃靼や蝦夷地に関する報告⁽⁵⁴⁾が収録されている。ベルナール版の『日本大王国志』のテキストは、先に見たテヴェノー訳とほぼ同じもので、テヴェノーがカロンから得た独自情報についての冒頭記述もそのまま再録されている。このベルナール版では、カロン校閲版にあった3種の図版は削除される一方で、カロン校閲版とは全く異なる日本図(図31)が新たに採用されていることが大きな特徴である。この地図は、主にユトレヒトで活躍した稀代の東洋学者レーラント(Adriaan Reland, 1676-1718)⁽⁵⁵⁾が石川流宣言による日本図をもとに作成した「日本帝国図(Imperium Japonicum)」の改編版で「66か国に分かれたる日本図(Le Japon divisé en Soissante et six provinces)」と題されたものである⁽⁵⁶⁾。先に見たようにボクサーがテヴェノー版に収録されていると記す日本図の特徴と合致するものだが、この地図は1715年に初めて公刊された地図であることから、テヴェノー版に収録されていることはあり得ない。

またこのベルナール版では、カロン『日本大王国志』を補う資料として、それまでのどの版にも見られない7つの記事が新たに収録されており、いずれも特筆すべき内容を有すものである。すなわち、

- ①カロン「コルベールの命によって書かれた日本との商業関係樹立についての覚書」⁽⁵⁷⁾
- ②「フランス国王よりシャム、韃靼、中国王朝への派遣使節への訓令指示書」⁽⁵⁸⁾
- ③「フランス国王より日本皇帝への親書」⁽⁵⁹⁾
- ④「フランス国王より日本への派遣使節であるフランソワ・カロンの訓令指示書」⁽⁶⁰⁾
- ⑤「日本皇帝より発せられたポルトガル人の日本来航を禁止する命令書」⁽⁶¹⁾
- ⑥「中国近くのオランダに帰属する台湾島における、東インド会社と日本の2隻の船舶との間で生じた特筆すべき出来事について（1627年スイツ捕縛事件報告）」⁽⁶²⁾
- ⑦「日本帝国の平戸においてオランダが設置した商館施設の解体についての歴史的記録。平戸商館日記より抜粋」⁽⁶³⁾

の7本である。いずれも明らかにカロンのフランス東インド会社での役務に関する史料で、カロン本人からテヴェノーのもとに渡っていたのではないかと推測される史料群だが、なぜテヴェノー版には収録されず、またどのようにしてベルナルがこれらの史料を入手し得たのかについては不明である。このうち、③と④の一部はボクサーによって英訳されている⁽⁶⁴⁾が、これまでほとんど知られていない史料群ではないかと思われる⁽⁶⁵⁾。

東洋文庫所蔵本のうち、1715年から1720年にかけてアムステルダム刊行された第1巻から第6巻のセットはモリソン旧蔵本（図32）で、先述の日本図を含む地図や図版の欠落が見られるが、19世紀後半のものと思われる半革装で状態は良い。また、もう一つの1716年から1719年にかけてルーアンで刊行された第1巻から第4巻の海賊版のセットは、刊行当時のものと思われる全革装で、地図や図版を完備しており、両セットを合わせて用いることで、カロン『日本大王国志』フランス語訳第2版をはじめとして、ベルナル『北方航海記集』の研究を十分に行うことが可能である。



図32 ⑬『北方探検記集』第3巻初版モリソン蔵書票

8. その他翻訳版

(「スウェーデン語訳版」、「イタリア語訳版」)

上記までが、カロン『日本大王国志』の原著と翻訳版諸本、ならびにその内容を転載した作品であるが、ボクサーはスウェーデン語訳版として、オランダ東インド会社員であったヴィルマン (Olof Eriksson Willman, 1623-1673) の航海記⁽⁶⁶⁾を挙げている⁽⁶⁷⁾。ヴィルマンの航海記は、ヴィルマン自身の航海記である『日本旅行記』と、ヴィルマンによる日本の概説である『日本王国略誌』、そしてヴィルマンとは異なる著者による2つの航海記という4作品が合冊されて、1667年に刊行された⁽⁶⁸⁾。ボクサーは、この『日本王国略誌』が、カロン『日本大王国志』の一部を用いているとして、同書をスウェーデン語訳版としているが、ヴィルマンによる『日本王国略誌』は基本的にヴィルマンによる独自テキストで構

成されており、あくまでその参考資料の1つとしてカロン『日本大王国志』が参照されているに過ぎず、これをスウェーデン語訳版とみなすのは、いささか無理があると言わざるを得ない⁽⁶⁹⁾。

また、同様にボクサーはイタリア語訳版として、前稿で取り上げたヴァレニウス『日本伝聞記』の抄訳記事を収録しているという作品⁽⁷⁰⁾を挙げているが、ボクサー自身はこれを実見しておらずコルディエ『日本書誌』記載の情報に拠ってそのように述べているが、コルディエによると当該記事はヴァレニウス『日本伝聞記』の極めて簡素な抄訳で、わずか15ページにも満たない分量であることから、これを『日本大王国志』のイタリア語訳版とみなすことは、やはり無理があると言わざるを得ない。

9. まとめ

以上、カロン『日本大王国志』諸本について、東洋文庫所蔵本を中心に確認してきた。同書オランダ語版は、カロン公認前の版やカロン自身が手を入れた校閲版が幾度も再版されており、当時のオランダ語圏読者の反響の大きさや、日本観の形成に大きな影響を与えたことがうかがえる。また、同書の内容を転載したさまざまな書物や翻訳版が、ラテン語、英語、フランス語、ドイツ語で刊行されたことによって、『日本大王国志』は当時のヨーロッパで広範囲にわたって読まれることになった。モンターヌスやケンペルらによる後続の日本研究書の出現によって、原著オランダ語版そのものは18世紀以降に再版されることはなかったが、その翻訳版や内容の一部を転載した作品は18世紀以降も再版され、またその内容がさらに別の作品に再録されていった。本稿ではこうした諸作品の書誌情報の整理を通じて、カロン『日本大王国志』が非常に長きにわたってヨーロッパにおける日本観の形成に影響を与えた作品であったということを改めて確認できた。19世紀後半に構築されたモリソン文庫中に『日本大王国志』に関する作品が少なくとも2点見出されるという事実は、まさにこのことを如実に示す好例であると言えよう。

すでにその内容が非常によく知られている『日本大王国志』ではあるが、ドイツ語訳初版に見られるメルクラインによる独自の注釈記事や、

フランス語訳初版において付け加えられたカロンと訳者との交流によって新たに執筆された記事、同訳第2版において初めて収録されたフランス東インド会社におけるカロンの活動に関する文書類など、まだまだその詳細が明らかになっていない点や課題も多いと思われる。また、全編にわたって書き込みの見られるサトウ旧蔵本である東洋文庫所蔵のフランス語訳初版は、今後より詳細な研究が待たれる示唆に富んだ1冊である。これまで見てきたように、東洋文庫にはこうしたカロン『日本大王国志』諸本の重要な作品がほぼ全て所蔵されており⁽⁷¹⁾、本稿において整理してきた書誌情報をもとにして、こうした課題に取り組むための理想的な研究環境が整っているとと言える。こうした環境を存分に活かした今後のさらなる研究の進展に期待したい。

注

- (1) *The compact edition of the dictionary of national bibliography: complete text reproduced micrographically. Volume II.* Oxford: Oxford University Press, 1975, p.923. 以下のマンレーの伝記に関する記述は同記事、ならびに英訳版訳者序文 (pp.1-2) に記載の情報に拠る。
- (2) 英訳版原文表記は次の通り。A description of the pompous and magnificent reception of the DEYRO in the City of Meaco, when he came to visit his Imperial Majesty of Japan, on Octob. 25. 1626. Written by Coenraed Krammer, deputed from the East-India-Company to that Court, and then present. クラメールの行幸記とその背景については下記を参照。クレインス フレデリック『17世紀のオランダ人が見た日本』臨川書店、2010年、88ページ。この記事は「幕末までにヨーロッパ人による天皇の行幸を実験した唯一の記録」(同101ページ)とされる重要なもので、いずれの翻訳版にも収録されている。
- (3) 原文表記は次の通り。An Extract out of the Governour of Indiaes Letter to the Ovserseers of the East-India-Company, touching the Traffick in Japan.
- (4) 原文表記は次の通り。A Short Relation of the Profits and Advantages which the Dutch East-India-Company in Japan might acquire, in case

they could compass the China Trade and Commerce: by Leonard Camps.

- (5) 原文表記は次の通り。A Description of the government, Might, Religion, Customes, Traffick, and other remarkable Affairs in the Kingdom of SIAM: Written in the Year 1636. By Joost Schouten, Directour of the East India-Company in that Country.
- (6) Boxer, Charles Ralph (ed. & trs.), *A true description of the mighty kingdoms of Japan & Siam / by Francois Caron & Joost Schouten; reprinted from the English edition of 1663 with introduction, notes and appendixes by C.R. Boxer*. London: Argonaut, 1935. Pp.176-177. (同書の東洋文庫所蔵本の請求記号 : Y-XVII-2-1)
- (7) Manley, Roger. *Commentariorum de rebellion Anglicana ab anno 1640. usque ad annum 1685. Pars prima*. London: L. Meredith & T. Newborough, 1686.
- (8) 例えば、クイーンズ大学図書館が所蔵する1冊には本書によく似た書き込みが見られる。https://ocul-qu.primo.exlibrisgroup.com/permalink/01OCUL_QU/1bso4gg/alma995293933405158 (2023年11月30日閲覧)
- (9) ボクサーは地図、図版全てが揃っている現存本は極めて稀少であるとしている (Boxer, op. cit., p.176)。
- (10) Ibid.
- (11) ボクサーは「textual reprint」であるとしている (Ibid.)。
- (12) Hubbard, Jason C. *Japoniæ insulæ: the mapping of Japan: historical introduction and cartobibliography of European printed maps of Japan to 1800*. Houten: Hes & de Graaf Publishers, c2012, p.222.
- (13) Boxer, op. cit., p.176.
- (14) Ibid.
- (15) 西洋製日本古地図の蒐集家で同分野研究の第一人者でもあったハーバード (Jason C. Hubbard, 1944 - 2022) 旧蔵本で、現在はゼンリンミュージアムに所蔵されている。筆者はハーバード氏に直接そのことをご教示いただき、またゼンリンミュージアムで同書を実見する機会を得ることができ

- た。ハバード氏、並びにゼンリンミュージアムのご厚意に改めて感謝申し上げます。ハバード氏旧蔵本収録の日本図については上掲脚注12を参照。
- (16) 同書94ページ。
- (17) 国内で東洋文庫以外に英訳版を所蔵するのは、1663年、1671年版を合わせても4機関ほどでしかなく、古書市場に出現することも滅多にない。
- (18) Churchill, Awnsham / Churchill, John(eds.). *A collection of voyages and travels: some now first printed from original manuscripts, others now first published in English. In six volumes. With a general preface, giving an account of the progress of navigation, from its first beginning. Illustrated with a great number of useful map and cuts, curiously engraven.* London: Messrs. Churchill, 1732. Vol. 1, pp.480-485. [東洋文庫請求記号：貴重書O-1-A-67] 同書は、チャーチル兄弟（Awnsham Churchill, 1658-1728 / John Churchill, 1650-1722）が手がけた18世紀を代表する航海記集成で、1704年に初巻が刊行され、最終的に全6巻構成として完結した。同書第1巻には、カロン『日本大王国志』所収の大名石高一覧が転載されている。また、ボクサーが指摘しているように、1811年に刊行された次の航海記集成にもカロンの記事を元にした日本論が掲載されている。ただし、この記事はボクサーの言うようなマンレー訳の再版ではなく、マンレー訳を参考にしつつも編者が独自に編纂を行った改編記事である。Pinkerton, John. *A general collection of the best and most interesting voyages and travels in all parts of the worlds;...volume the seventh.* London: Printed for Longman and others, 1811. [東洋文庫請求記号：貴重書O-2-A-44]
- (19) Mandelslo, Johan Albrecht de. *Des Hoch Edelgebornen Johann Albrechts von Mandelslo Morgenländische Reyse=Beschreibung...* Schleswig: Christian Guth, 1658.
- (20) アーノルドの伝記情報については、次の文献を参照。Blom, Franciscus Joannes Maria. *Christoph & Andreas Arnold and England: The travels and book-collections of two seventeenth-century Nurnbergers.* Enschede: Sneldruk Boulevard, 1981.
- (21) メルクラインの伝記情報については、Deutsche Biographie の次の記事

を参照。Merklein, Johann Jakob. (<https://www.deutsche-biographie.de/sfz62027.html>) (2023年11月30日閲覧)

- (22) 原文表記は次の通り。Journal, oder Beschreibung alles deß jenigen was sich auf währender unserer neunjährigen Reise im Dienst der Vereinigten geocroyrten niederländischen ost=indianischen Compagnie, besonders in denselbigen Ländern täglich begeben und zugertagen:...
- (23) Hubbard, op. cit., p.215. カロン校閲版や英訳初版収録日本図と比べるとサイズもやや小さい。
- (24) 原文表記は次の通り。Kurtzer und warhafftiger Bericht deß jenigen was auf der schönen Insel Formosa, wie auch auf der dabey ligenden Insul Tyawan, und der Vestung Zeelandia am 5. July 1662, fûrgefallen als gemeldte Vestung den Chinesen übergeben worden.
- (25) 原文表記は次の通り。Was herr Caron, in niederteutscher Sprach / von Jappan schreibt / das hat Er nach und nach verteutschet / wie wir Teutsche reden / die nummehr alle Sprachen nöthen; noch ohne Zwang / und Ungemach. 編者アーノルドは若き日にドイツ語による詩作を推奨するグループに所属し、自身も詩作を行っていたことが知られている (Blom, op. cit., pp.17-18.)。
- (26) ボクサー自身は実見できなかったようであるが、同書はそれほど珍しいものではなく特にドイツ語圏の研究機関には多くの所蔵が認められると述べている (Boxer, op. cit., p.177)。確かに同書はCiNii上でもカロン『大日本王国志』最多の7機関の所蔵を確認できるが、現在の古書市場に出現することはほとんどない。
- (27) Arnold, Christoph (ed.). *Wahrhaftige Beschreibungen dreyer mächtigen Königreiche Japan, Siam, und Corea...*Nürnberg: Michael und Joh. Friedrich, 1672. [Boxer: German ed. 2] 同書はカロン『大日本王国志』ドイツ語訳第2版とみなせるものだが、その内容が大幅に増補、刷新されていることから、改訂版というよりもほとんど別の著作に近い刷新版と呼ぶべきであろう。
- (28) Kaempfer, Engelbert. *The history of Japan, ...* London: Printed for the translator, 1727.

- (29) エンゲルベルト・ケンペル (著) / 今井正 (編訳) 『新版改訂・増補 日本誌：日本の歴史と紀行：第一分冊』、霞ヶ関出版株式会社、2001年、95ページ。
- (30) 現在目にすることができる文字の下に薄く同様にインクで記した文字の痕跡が見えることから、後年に書き改められたものと思われる。
- (31) この作品自体に出版社情報は記載されていない。ここに記載しているのは、後述する同書が収録されたテヴェノー『航海記集成』の第2部を手がけていた出版社であるが、同書はその出版事情と書誌情報が極めて複雑であることが知られている。
- (32) 登録情報では1622年となっているが、これはカロン『日本大王国志』成立以前のため、明らかに正確でない。この作品が収録されたテヴェノー『航海記集成』第2部の刊行年は1666年とされているが、後述するように必ずしもこれが『日本大王国志』フランス語訳初版の正確な刊行年と見做せるわけではない。ここでは仮に1673年とした理由についても後述。
- (33) Thévenot, Melchisédech (ed.). *Relations de divers voyages curieux, qui n'ont point esté' publiées; ov qui ont esté' tradvites d'Hacluyt, de Purchas, & d'autres Voyageurs anglois, hollandois, portugais, allemands, espagnols; et de quelques Persans, Arabes, et avtres auteurs orientaux. Enrichies de figures, de plantes non décrites, d'animaux inconnus à l'europe, & de cartes geographiques de pays dont on n'a point encore domé de cartes. Emiere [-IV] partie. 4 vols. Paris: Jacques Langlois, 1663-1672. [東洋文庫請求記号：貴重書 O-1-A-66]*
- (34) Rubiés, Joan-Pau. *From the 'History of travayle' to the history of travel collections: The rise of an early modern genre*. In: Carey, Daniel / Jowitt, Claire (eds.). *Richard Hakluyt and travel writing in early modern Europe*. Farnham: Ashgate, 2012, pp.36-39.
- テヴェノーの『航海記集成』については下記も参照。
- Dew, Nicholas. *Reading travels in the culture of curiosity: Thévenot's collection of voyages*. In: Mancall, Peter (ed.). *Bringing the world to early modern Europe*. Leiden: Brill, 2006.
- Dew, Nicholas. *Orientalism in Louis XIV's France*. Oxford: Oxford Uni-

versity Press, 2009.

- (35) Cordier, Henri. *Bibliotheca Japonica: dictionnaire bibliographique des ouvrages relatifs à l'Empire japonais rangés par ordre chronologique jusqu'à 1870 suivi d'un appendice renfermant la liste alphabétique des principaux ouvrages parus de 1870 à 1912*. Paris: Imprimerie nationale, Ernest Leroux, 1912, p.343.
- (36) もっともボクサー自身はテヴェノー『航海記集成』の原本を実見することができなかったようである (Boxer, op. cit., p.178)。
- (37) Tiele, Pieter Anton. *Mémoire bibliographique sur les journaux des navigateurs Néerlandais*. Amsterdam: Frederik Muller, 1867, pp.260-261.
- (38) フランソア・カロン (原著) / 幸田成友 (訳著)『日本大王国志』平凡社、1967年、46ページ。
- (39) Boxer, op. cit., p.178.
- (40) ボクサーの記述に倣った幸田前掲訳書も同様の誤りを記載している。同訳書84ページ。
- (41) 吉良芳恵「アーネスト・サトウが遺したもの」横浜開港資料館 (編)『図説アーネスト・サトウ：幕末維新のイギリス外交官』有隣堂、2001年所収、106-109ページ。
- (42) 吉良前掲論文、108ページ。
- (43) Sotheby, Wilkinson & Hodge. *Catalogue of books & manuscripts...* London: William Clowes and Sons, limited, 1913.
- (44) Ibid. p.29. 同目録405番の記述は下記の通り。
Caron (Fr.) Relation de l'Empire du Japon (a portion of Thevenot's Collection), plate, MS. Notes in the margins, half calf. Folio. (1696).
なお同目録によると、サトウはこのフランス語訳初版の他に少なくともオランダ語1648年版、1652年版、カロン校閲版 (1662年版)、ドイツ語訳初版、ドイツ語訳第2版を所蔵していたようである。
- (45) 特に有名なものとしてはシーボルト『日本』が挙げられる。
Siebold, Philipp Franz von. *Nippon. Archiv zur Beschreibung von Japan und dessen neben- und schutzländern: Jezo mit den Südlichen Kurilen, Krafu, Koorai und den Liukiu-inseln, nach japanischen und europäi-*

schen Schriften und eigenen Beobachtungen bearbeitet. 6 vols. Leyden, 1852. [東洋文庫請求記号：La-134]

- (46) 例えば、下記ソリエ『日本教会史』の情報が記されている。
Solier, François. *Histoire ecclesiastique des isles et royaumes du Japon.* 2 vols. Paris: Sebastien Cramoisy, 1627-1629.
- (47) アムステルダム初版の成功を受けて翌年にルーアンで刊行されたもので、著者名や出版社名が削除されている他、一部の口絵が反転しているといった特徴から見て、明らかに海賊版であることが見て取れる (Hubbard, op. cit., p.91.)。
- (48) ベルナルについて主に下記文献を参照。
Hunt, Lynn / Jacob, Margaret C. / Mijnhard, Wijnand. *The book that changed Europe: Picart & Bernard's Religious Ceremonies of the World.* Cambridge: The Belknap press of Harvard university press, 2010.
- (49) Bernard, Jean Frederic / Picart, Bernard. *Cérémonies et coutumes religieuses de tous les peuples du monde.* 7 vols. Amsterdam: J. F. Bernard, 1723-37.
同書は何度も再版され、英語、フランス語、オランダ語など各国語に翻訳されたほか、簡易版や改編版といった多数の類似書が刊行されるほどのベストセラーになったことが知られており、東洋文庫でも後年改訂版(貴重書O-1-B-25)を所蔵している (Hunt...et al. op. cit., pp.313-316.)。
- (50) Renneville, Constantin de, ca. *Recueil des voyages qui ont servi à l'établissement et aux progrès de la Compagnie des Indes Orientales, formé dans les Provinces Unies des Pais-bas.* 7 vols. Amsterdam: Aux dépens d'Estienne Roger, 1702-1707.
- (51) ボイス・ペンローズ / 荒尾克己 (訳) 『大航海時代：旅と発見の2世紀』筑摩書房、1985年、第11章「北方航路の探究」。
- (52) ボクサーが参照した、より後年の1732年版では第4巻に収録されている。ただし、いずれの版にあってもテキストそのものは同一と思われる (Boxer, op. cit., pp.178-179.)。
- (53) この報告は、ヘンドリック・ブラウエル (Hendrick Brouwer, 1581-1643)

による下記の航海記の補遺として初めて公刊された。本書は下記からのフランス語訳と思われる。

Brouwer, Hendrick. *Journal ende historis verhael van de reyse gedaen by Oosten de straet la maire, near de custen van Chili, onder het beleyt van den heer general Hendrick Brouwer, inden jare 1643 voor gevallen:...als mede een beschryvinge van het Eylandt Eso,...* Amsterdam: Broer Jansz, 1646.

- (54) マルティニによる下記の『中国新地図帳』に収録されている何らかのテキストを出典としている可能性が高いが、現時点では正確な出典は不明。Martini, Martino / Bleau, Joan. *Novvs atlas Sinensis, a Martino, Soc Iesu:...* [s.l.: s.n., 1655?] [東洋文庫請求記号：貴重書O-3-A-160]
- (55) レーラントについては主に下記文献を参照。
Jaski, Bart...et al.(eds.), *The Orient in Utrecht: Adriaan Re-land(1676-1718) Arabist, cartographer, antiquarian and scholar of comparative religion*. Leiden: Brill, 2021.
- (56) Hubbard., op. cit., pp.287-288.
- (57) 原文表記は次の通り。Memoire pour l'establisement du commerce au Japon, dressé suivant l'ordre de Monseigneur Colbert par Mr. Caron.
- (58) 原文表記は次の通り。Instruction pour N. N. Envoyé du roi de France, au Grand Cham, Empereur de Tartarie, & Roi de la Chine.
- (59) 原文表記は次の通り。Au Souverain, & Très-haut Empereur & Regent du Grand Empire du Japon, dont les sujets sont très-soumis & obeissans. Le Roi de France souhaite une longue & heureuse vie, & beaucoup de prosperité en son Regne.
- (60) 原文表記は次の通り。Instruction pour François Carron, Envoyé du Roi de France & Navarre, à l'Empereur du Japon, pour lui delivrer la Lettre & le present de Sa Majesté: & Suivant laquelle il se conduira pour l'execution des affaires projectées, & qui lui sont Commises.
- (61) 原文表記は次の通り。Ordonnance de l'Empereur du Japon envoyée par deux Commissaires de S. M. Imperiale à tous les Gouverneurs des Païs & terres maritimes & des Environs, portant ordre d'empêcher les Por-

tugais d'aborder au Japon.

- (62) 原文表記は次の通り。Relation d'un fait memorable arrive en l'Ile Formosa, proche de la Chine, du tems qu'elle appartenoit à la Compagnie des Indes Orientales de Hollande, entre le Gouverneur, & deux grands Vaisseaux Japonnois.
- (63) 原文表記は次の通り。Recit Historique de la Démolition d'une Forteresse, & de quelques Edifices construits à Firando, dans le Japon, par les Hollandois établis dans cet Empire. Tiré & traduit de leur Journal de l'année 1640.
- (64) Boxer, op. cit., pp.153-156.
- (65) ただし、幸田はボクサーに倣ってこれらを紹介した上で、⑦について「明らかにカロンの平戸日記から抄出したもので興味に富む」と記している。幸田訳前掲書、85ページ。
- (66) Willman, Olof Eriksson / Kiöpping, Nils Matsson. *Een kort beskrifning uppå trenne resor och peregrinationer, samt konungariket Japan : I. Beskrifwes een reesa som genom Asia, Africa och många andra hedniska konungariket ... aff Nils Matson Kiöping ... II. Förstelles thet stoora och mächtige konungariket Japan ... III. Beskrifwes een reesa till Ost Indien, China och Japan, giordh och beskrefwen aff Oloff Erickson Willman ... IIII. Uthföres een reesa ifrån Muszcow till China, genom Mongul och Cataija ...*Wisingsborgh: Johann Kankel, 1667.
- (67) Boxer, op. cit., p.180.
- (68) 村川堅固 / 尾崎義 (訳) 『セーリス日本渡海記 / ヴィルマン日本滞在記』(新異国叢書6) 雄松堂書店、1975年、訳者解説参照。ヴィルマンの著作の邦題は同訳書に拠る。なお、ヴィルマンの航海記は2016年に英訳されている。
- Willman, Olof Eriksson / Blomberg, Catharina(tr.). *The journal of Olof Eriksson Willman: From his voyage to the Dutch East Indies and Japan 1648-1654*. Leiden: Global Oriental, 2014.
- (69) もっとも、ボクサーはヴィルマンの航海記が極めて稀観であることを強調して、自身は実見することはできず、コルディエ『日本書誌』記載の

書誌と数年前に古書店の広告に掲載された情報を頼りにした旨を断っている (Boxer, op. cit., p.180.)。

- (70) 筆者はこの作品を実際に確認できなかったが、ボクサーがコルディエ『日本書誌』の記載情報 (p.369) を元にして挙げている書誌情報は次の通りで、確かにコルディエ同書に同様の記載が確認できる。

Descrizione de I regni del giappone, del Signor Bernado Vareno dottore in Medicina. Scritta nella lingua Latina dal medesimo Autore. (Anzi, Il Genio Vegante, Parma, 1693, Vol. IV, pp.113-26.)

- (71) 諸本中、唯一欠けていると言えるのはドイツ語訳第2版 (刷新版) くらいであろう。